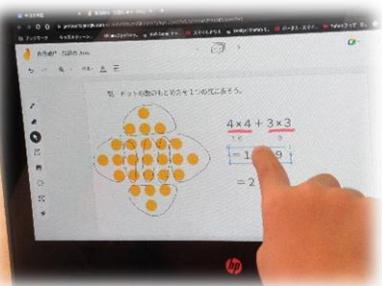
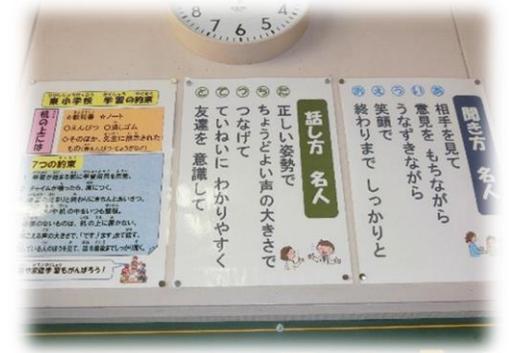
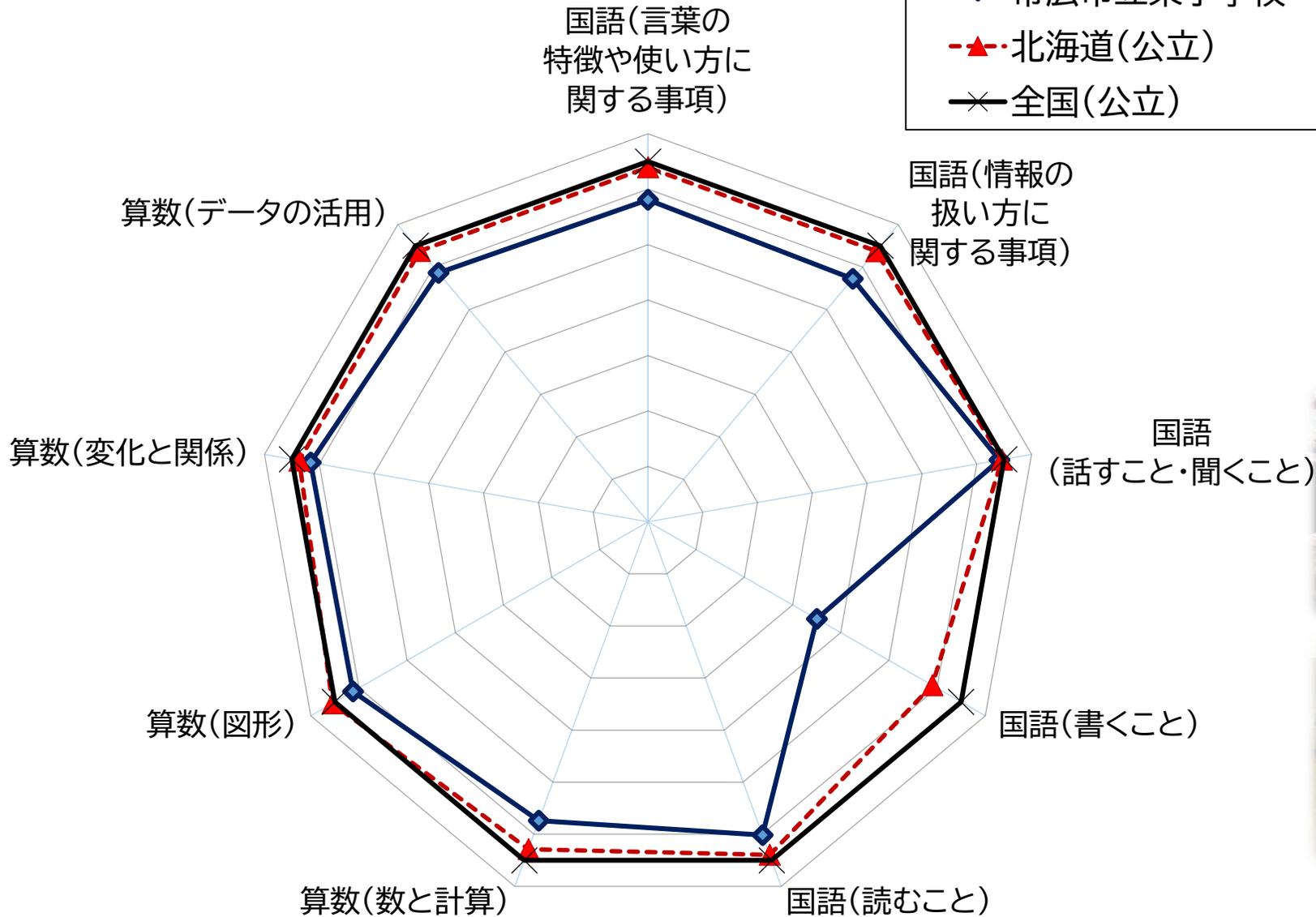


令和5年度 全国学力・学習状況調査を受けて



令和5年度 全国学力・学習状況調査を受けて

【国語】

平均正答率では、全道・全国平均を大きく下回った。設問ごとに見ると、「主張する文章や説明する文章などの種類とその特徴について理解しているかどうかをみる設問」、「情報と情報を関係付けたり、図などによる語句と語句との関係を表したりすることができるかどうかをみる設問」、「話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問」の正答率については、全国・全道を上回っている。

その一方で、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる設問」、「複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりする設問」、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えをまとめることができるかをみる設問」、「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる設問」の正答率に課題が見られる。授業以外にも日常的に「漢字・敬語を使う場面」や「自分の考えをまとめる場面」を設定し、力を付けることが必要である。

正答率が低い問題では無回答率が高くなる傾向にある。全体としては、「国語が好きだ」と答える児童が全道・全国平均を上回っているが、「国語は大切だ」「国語は将来役に立つ」と答える児童が全道・全国平均を下回っており、学習の目的を子どもが自覚できるような授業改善が必要である。

【算数】

平均正答率では、全道・全国平均を大きく下回った。設問ごとに見ると、「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問」、「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる設問」、「複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する設問」の正答率については、全国・全道を上回っている。

その一方で、「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる設問」、「()を用いた式や、加法と乗法の混合した式について、それぞれどのような場面を表しているのかを判断する設問」、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問」、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる設問」の正答率については、全国・全道を下回っており、今後も学習の中で意識して取り組んでいく必要がある。また、選択肢以外の解答をしている児童も多く見受けられ、設問の内容を正確に把握する力が求められる。

全体としては、「算数が好きだ」「算数は将来役に立つ」と答える児童が全道・全国平均を下回っており、基礎基本的な計算力の向上や学んだことを普段の生活の中で活用する意識を高める指導を充実させていく必要がある。

【学力・学習状況より（全国・全道と比較して）】

- 朝食を毎日食べている児童が多い。
- 国語の勉強が好きな児童が多い。
- 読書が好きな児童が多い。
- 学校の授業時間以外に、普段1日あたり10分以上読書する児童が多い。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童が多い。
- 学習の中でPC・クロムブックなどのICT機器を使うのは、学習の役に立つと考えている児童が多い。
- △毎日同じくらいの時刻に起床・就寝している児童が少ない。
- △算数の勉強が好きな児童が少ない。
- △家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が少ない。
- △学校の授業時間以外に、普段、1日1時間以上勉強する児童が少ない。
- △外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う児童が少ない。

【今後の取組】

- 基礎・基本の確実な定着
→宿題・家庭学習を充実するとともに、児童の実態に応じた学習内容の補充を継続する。（家庭学習の手引き利用、朝学習・AIDリルの活用）
- 授業の改善・充実
→「学習の約束」の徹底と定着を図る。
→学びに向かう力を伸ばさせる学習活動を展開する（自分の考えをもち、表現し、共に学ぶ合う学習過程の工夫を通して）。
→個に応じた、分かる・できる・楽しい授業づくり(chromebookの積極的利用)を行う。
- 各種調査の活用
→学力調査、チャレンジテストなどの結果の分析を学校全体で行い、各学年の課題となる分野や領域を明確にし、授業改善を図る。